

ベースセッター 取扱説明書

在来軸組工法

桝組壁工法

※ご使用前に必ずお読みください。

プレカット会社で
金物を平角柱に取付る場合

施工方法 A
表面を参照

現場で
金物を平角柱に取付る場合

施工方法 B
裏面を参照

用途

■基礎と450mm幅の平角柱を接合し、狭小耐力壁を実現する柱脚金物です。

特長

- ベイツ集成材およびビスを施工したカラマツ集成材で8.8kN※までのせん断耐力に対応可能です。※使用環境Ⅲの場合
- 450mm幅の平角柱が耐力壁となるため、狭小地での大開口確保に最適です。
- ベースセッターは、基礎と450mm幅の耐力壁柱(平角柱)を緊結する柱脚金物です。
- BS耐力壁は、ベースセッターを使用した1階専用狭小耐力壁です。

接合具

幅	工法	品名	数量
105用	在来軸組工法 桝組壁工法	専用座金φ40	4枚(付属品)
		ドリフトピン(DP-103)	10本(別売品)
		カラマツ仕様 ビスHQR-140(Mブルー)	8本(別売品)
120用	在来軸組工法	専用座金φ40	4枚(付属品)
		ドリフトピン(DP-118・幅広側)	6本(別売品)
		ドリフトピン(DP-103・幅狭側)	4本(別売品)
		カラマツ仕様 ビスHQR-140(Mブルー)	8本(別売品)

※ベースセッター用ドリフトピンセット(105用)(120用)、ベースセッター用ビス(カラマツ仕様)をご用意しております。
 ・ドリフトピンセット(105用).....ドリフトピン(DP-103)×10本
 ・ドリフトピンセット(120用).....ドリフトピン(DP-118)×6本、ドリフトピン(DP-103)×4本
 ・ビス(カラマツ仕様).....ビスHQR-140(Mブルー)×8本

ハウスプラス確認検査(株)評価書

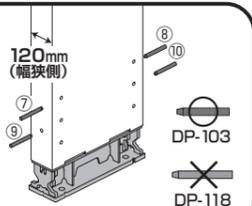
ベースセッター

平角柱サイズ	工法	材種	短期許容せん断耐力(Pa)
105×450mm	在来軸組工法 桝組壁工法	ベイツ集成材 E135-F375以上 または カラマツ集成材 E105-F300以上※2	8.8kN※1
120×450mm	在来軸組工法		

※1 使用環境Ⅲにおける数値
 ※2 カラマツ集成材を使用する場合ビスHQR-140を木材幅狭側に打ち込みます。
 詳しくは取扱説明書内、施工方法手順「カラマツ集成材を使用する場合」を参照してください。
 ※仕様条件等、詳しくはホームページのマニュアルをご確認ください。

注意!!!

- ・木材の加工は必ずプレカット会社で行ってください。
- ・柱幅が120mmの場合でも、幅狭側にはドリフトピンDP-103をご使用ください。(ドリフトピン打ち込み手順⑦~⑩の工程)



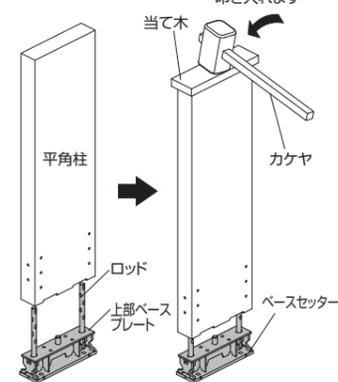
施工方法 A-1 プレカット会社で金物を平角柱に取付る

①平角柱にベースセッターを叩き入れる

ベースセッターのロッドを加工孔に差し込み、平角柱を傷めないようにベースセッターの上部ベースプレートが平角柱の木口に密着するまで当て木、カケヤなどを用いて叩き入れます。

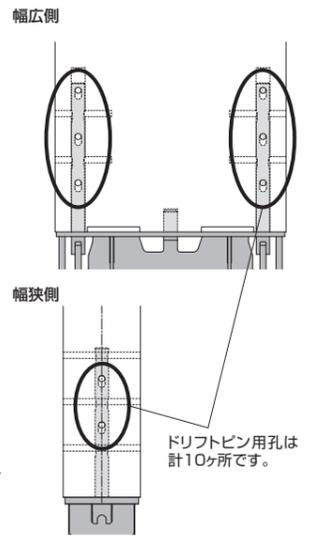
【注意】

ベースセッターのロッド、せん断ダボを差し込み孔の加工クズをエア・ブロー等で完全に除去してください。



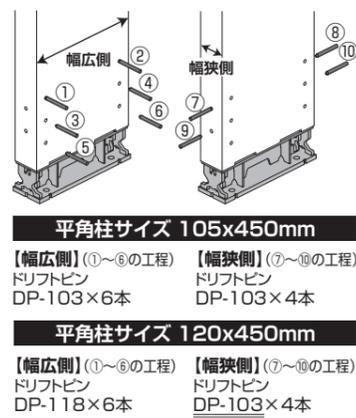
②孔位置を確認する

ベースセッターを取付けるドリフトピン用孔とベースセッターの孔が一致し、ドリフトピンが問題なく打ち込める位置となっていることを目視により確認します。



③ドリフトピンを打ち込む

ドリフトピン(別売品)を打ち込み順に注意しながら順番に計10本打ち込みます。(下図参照)

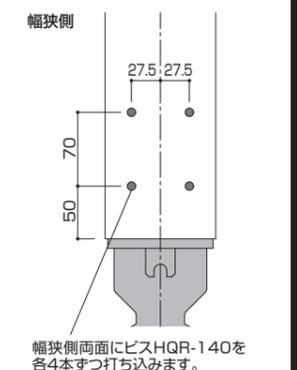


平角柱サイズ	幅広側	幅狭側
105x450mm	【①~⑥の工程】 ドリフトピン DP-103×6本	【⑦~⑩の工程】 ドリフトピン DP-103×4本
120x450mm	【①~⑥の工程】 ドリフトピン DP-118×6本	【⑦~⑩の工程】 ドリフトピン DP-103×4本

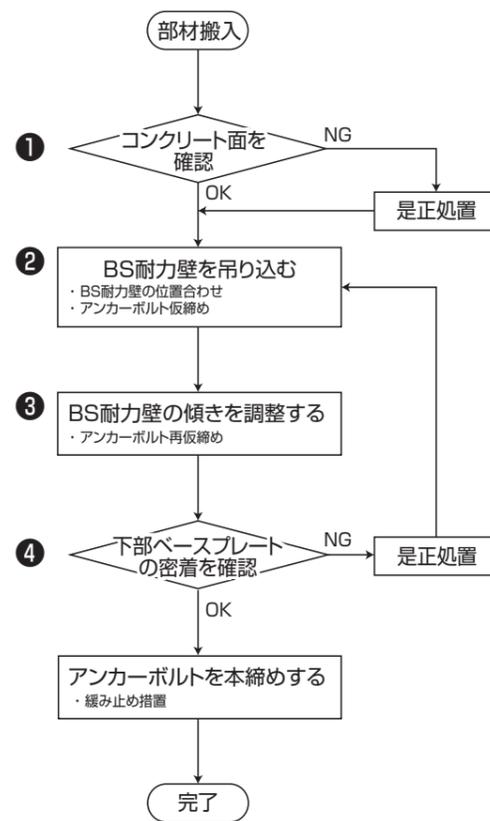
注意!!!
 柱幅が120mmの場合でも、幅狭側(⑦~⑩の工程)にはドリフトピンDP-103をご使用ください。ドリフトピンは打ち込み後、抜けませんのでご注意ください。

カラマツ集成材を使用する場合

カラマツ集成材を使用する場合、下図を参照の上、幅狭側両面のビス打ち込み箇所にφ3.5程度の先孔を明け、ビス(別売品)を計8本打ち込みます。ベイツ集成材を使用する場合、ビスの打ち込みは不要です。



施工方法 A-2 現場での施工

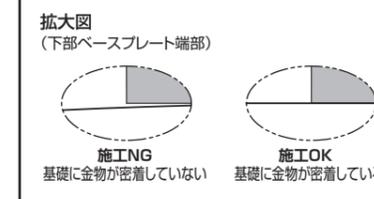
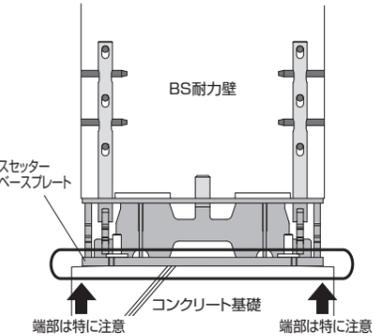


①コンクリート面を確認

ベースセッター耐力壁が設置されるコンクリート躯体は精度よく水平に施工され、ベースセッターの下部ベースプレートがコンクリート躯体に密着する状態であることを確認します。

【是正処置の注意】

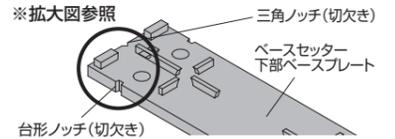
レベル調整は建て方後にグラウト材(無収縮モルタル材)を用いて、コンクリート躯体とベースセッターの下部ベースプレートを確実に密着させてください。



②BS耐力壁を吊り込む

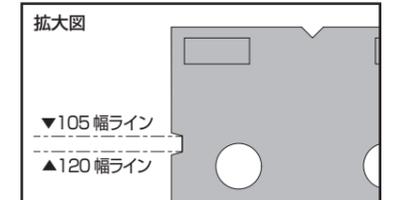
ベースセッターをセットしたBS耐力壁を、地墨を基準に正規の位置に吊り込み、アンカーボルトを付属のナットで仮締めします。

【位置合わせ方法】



在来軸組工法

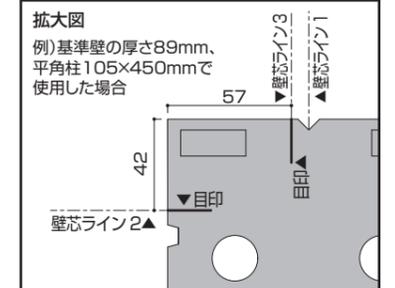
ベースセッターの台形ノッチ(切欠き)、三角ノッチ(切欠き)に合わせてください。



桝組壁工法

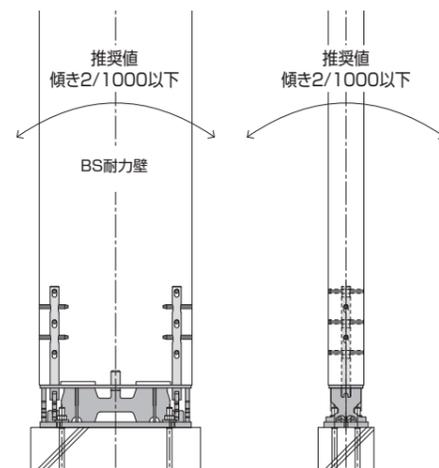
壁芯ライン1~3のいずれかにベースセッターを合わせてください。

《ベースセッターを中央位置で使用する場合》
壁芯ライン1に合わせる(三角ノッチ(切欠き)中央)
《ベースセッターを芯ずりで使用する場合》
壁芯ライン2と3に合わせる(目印を設けてください)



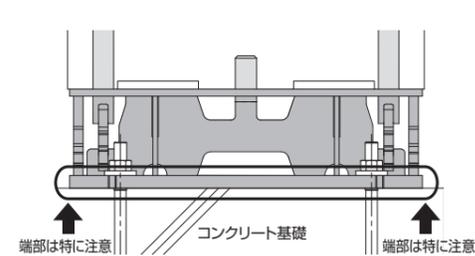
③BS耐力壁の傾きを調整する

ベースセッターのアンカーボルトを専用座金(付属品)を介して仮締めし、水平器等を使用して、BS耐力壁の傾きが許容値以内(推奨値 2/1000以内)であることを確認します。



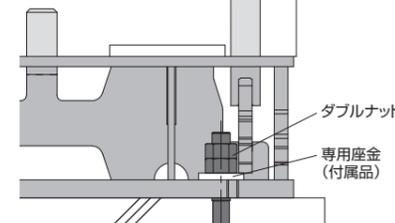
④下部ベースプレートの密着を確認

ベースセッターの下部ベースプレートがコンクリート躯体に密着していることを再度確認します。密着していることが確認できない場合はグラウト材(無収縮モルタル材)等を用いて是正し、手順②に戻ります。



⑤アンカーボルトを本締めする

④が確認できたらアンカーボルトのナットを本締めし、ダブルナットで緩み止めの処理を行います。



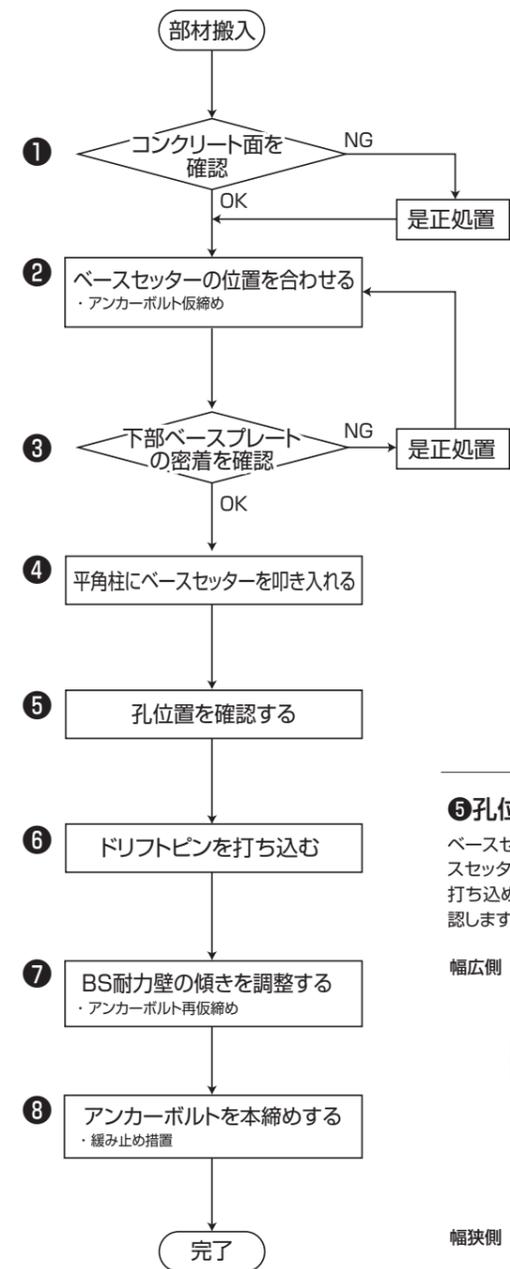
注意!!!
必ず専用座金(付属品)とナット2個を用いて緩み止めを行ってください。

現場で金物を平角柱に取付る場合の
施工方法 Bは裏面に記載しています。

注意事項 も裏面に記載しています。

施工方法B 現場で金物を平角柱に取付る場合

※ご使用前に必ずお読みください。

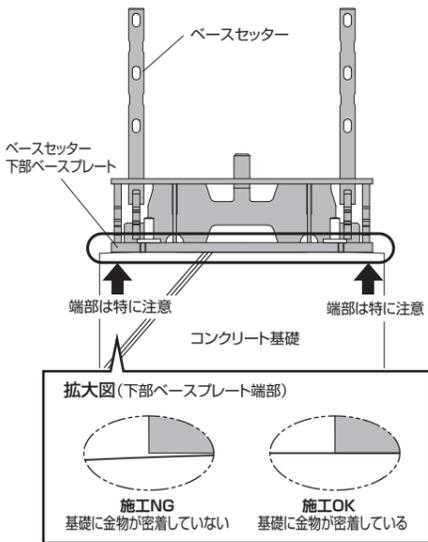


①コンクリート面を確認

ベースセッターが設置されるコンクリート躯体は精度よく水平に施工され、ベースセッターの下部ベースプレートがコンクリート躯体に密着する状態であることを確認します。

【是正処置の注意】

レベル調整は建て方後にグラウト材(無収縮モルタル材)を用いて、コンクリート躯体とベースセッターの下部ベースプレートを確実に密着させてください。

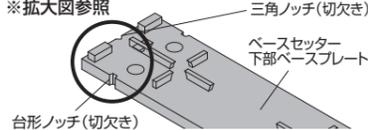


②ベースセッターの位置を合わせる

ベースセッターをセットしたベースセッター耐力壁を、地墨を基準に正規の位置に吊り込み、アンカーボルトを付属のナットで仮締めします。

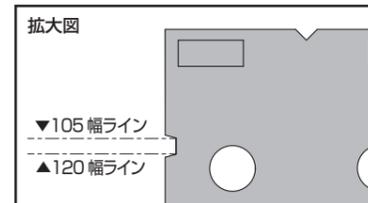
【位置合わせ方法】

※拡大図参照



在来軸組工法

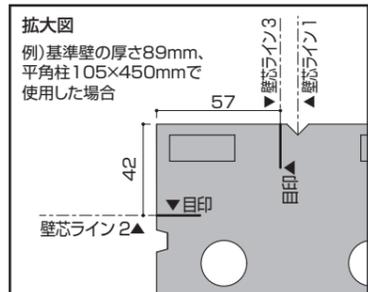
ベースセッターの台形ノッチ(切欠き)、三角ノッチ(切欠き)に合わせてください。



枠組壁工法

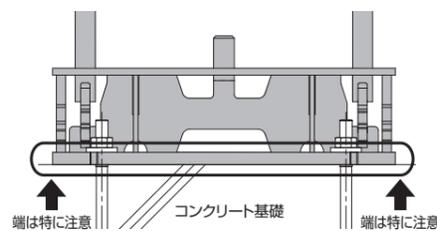
壁芯ライン1~3のいずれかにベースセッターを合わせてください。

《ベースセッターを中央位置で使用する場合》
壁芯ライン1に合わせる(三角ノッチ(切欠き)中央)
《ベースセッターを芯ずれて使用する場合》
壁芯ライン2と3に合わせる(目印を設けてください)



③下部ベースプレートの密着を確認

ベースセッターの下部ベースプレートがコンクリート躯体に密着していることを再度確認します。密着していることが確認できない場合はグラウト材(無収縮モルタル材)等を用いて是正し、手順②に戻ります。

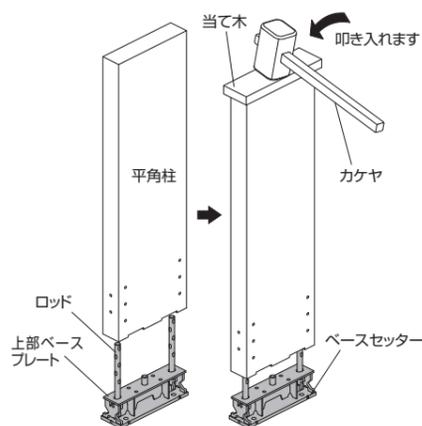


④平角柱にベースセッターを叩き入れる

ベースセッターのロッドを加工孔に差し込み、平角柱を傷めないようにベースセッターの上部ベースプレートが平角柱の木口に密着するまで当て木、カケヤなどを用いて叩き入れます。

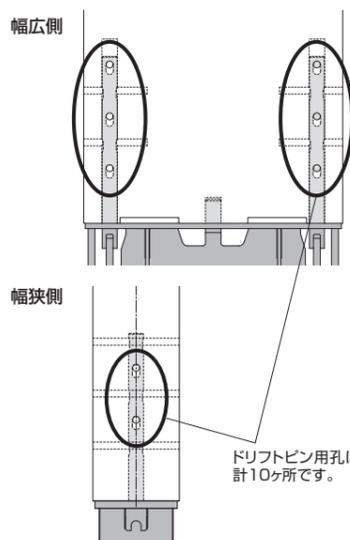
【注意】

ベースセッターのロッド、せん断ダボを差し込む孔の加工クズをエア・ブロー等で完全に除去してください。



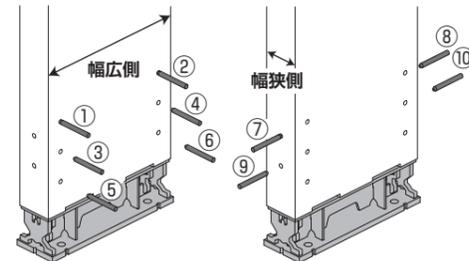
⑤孔位置を確認する

ベースセッターを取付けるドリフトピン用孔とベースセッターの孔が一致し、ドリフトピンが問題なく打ち込める位置となっていることを目視により確認します。



⑥ドリフトピンを打ち込む

ドリフトピン(別売品)を打ち込み順に注意しながら順番に計10本打ち込みます。(下図参照)



平角柱サイズ 105x450mm

【幅広側】①~⑥の工程
ドリフトピン DP-103×6本
【幅狭側】⑦~⑩の工程
ドリフトピン DP-103×4本

平角柱サイズ 120x450mm

【幅広側】①~⑥の工程
ドリフトピン DP-118×6本
【幅狭側】⑦~⑩の工程
ドリフトピン DP-103×4本

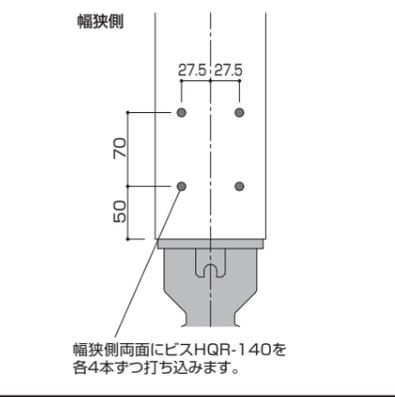
注意!!!

柱幅が120mmの場合でも、幅狭側(⑦~⑩の工程)にはドリフトピンDP-103をご使用ください。ドリフトピンは打ち込み後、抜かせませんのでご注意ください。



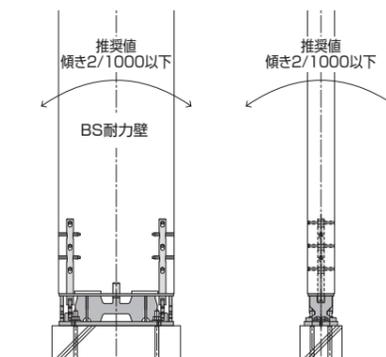
カラマツ集成材を使用する場合

カラマツ集成材を使用する場合、下図を参照の上、幅狭側の両面にビスが計8本打ち込まれていることを確認します。ビスが打ち込まれていない場合は、ビス打ち込み箇所径にφ3.5程度の先孔をあけ、ビス(別売品)を打ち込みます。ペイマツ集成材を使用する場合、ビスの打ち込みは不要です。



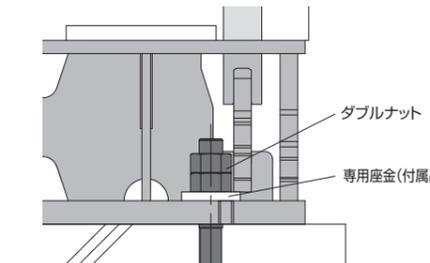
⑦BS耐力壁の傾きを調整する

ベースセッターのアンカーボルトを専用座金(付属品)を介して仮締めし、水平器等を使用して、BS耐力壁の傾きが許容値以内(推奨値 2/1000以内)であることを確認します。



⑧アンカーボルトを本締める

⑦が確認できたらアンカーボルトのナットを本締めし、ダブルナットで緩み止めの処理を行います。



注意!!!
必ず専用座金(付属品)とナット2個を用いて緩み止めを行ってください。

プレカット会社で金物を平角柱に取付る場合の施工方法Aは表面に記載しています。

注意事項

- ベースセッターの取付く平角柱の木材加工は高い加工精度が必要とされるため、ベースセッター取付け部の加工はプレカット加工機で行ってください。
- ベースセッターを取付ける加工孔位置に不備があった場合、補修は行わず平角柱を取り換えてください。
- 必ず付属の専用座金、別売品のドリフトピンやビスで接続してください。
※ドリフトピンやビスの本数を減らしたり、付属部品以外の接合具を使用して取付けた場合は、所定の耐力が得られませんのでご注意ください。
- カラマツ集成材を使用する場合、施工方法手順「カラマツ集成材を使用する場合」を参照の上、木材にビスを打ち込んでください。
- 柱幅が120mmの場合でも、幅狭側にはドリフトピンDP-103(別売品)をご使用ください。(施工方法手順「ドリフトピンを打ち込む」の⑦~⑩)
- 別売品の高耐力フレックスアンカーボルト(ベースセッター用)を使用する場合、ナットは必ずアンカーボルトに付属されている高耐力ナットをご使用ください。
- アンカーボルトは専用座金とナット2個を用いて、ダブルナットで緩み止めの処理を行ってください。

- ケガに注意!!手袋を着用するなど金物の切断面に注意して作業をしてください。
- 金物は所定の位置に取り付けてください。
- 金物の干渉に注意しご使用ください。
- 接合・締付け工具類は、適切なものをご使用ください。
- 現場で防腐・防蟻処理他、薬剤を使用する場合は、金物に薬剤が付着しないように注意してください。金物本体や表面処理が著しく劣化する場合があります。
- 放り投げたりハンマーで叩く等、乱暴に取扱うと破損や変形する恐れがあります。
- 目的用途以外には使用しないでください。